

< 結論 >

今年は4月12日が復活祭聖日です。今日は、皆様と一緒に私達が信仰によって頂いている復活について学んでみたいと思います。私達の人生には色々な事が起きます。元気と思っていた人がガンなどの病気で、あるいは突然の事故などで、予測していなかった死が突然やって来ます。

私は復活祭を迎えるたびに人の死、亡くなった愛していた家族との再会の事を思い巡らします。特に死の間際に信仰を持って亡くなった母と、どの様な出会いが出来るのであろうか？ イエス様の事を知る機会もなく、戦死した父との事、又わずか9か月で亡くなった弟との事など、憐れみ深いイエス様が亡くなった人達にしてどの様に下さるのか思いめぐらします。イエス様は福音を聞く機会が無かった人に対しての、お取り扱い対してはあまりお話しになっておられません。皆さんは私達に約束されている復活をどの様に思いめぐらしておられますか。やがて必ずやって来る私達の死も、主イエスにあっては新しい命への道であり、信じる者には喜びと希望がある事を聖書は伝えています。

< 本論 >

聖書(ルカ20:27~38)を読むと、復活がある事を否定するサドカイ派の人々に反論しておられるイエス様を見ます。サドカイ派の人々は旧約のモーセ五書だけを重んじ、魂の不滅も死人の復活も否定しています。彼らは自分の復活を信じないのに、この復活についてイエス様に問いかけているのは、イエス様を困らせて、死者の復活についての信仰を嘲笑うためでした。彼らは「一人の女性が次々と、7人の夫を持った。その女は復活した時誰の妻になるのですか」と、仮想のケースを持ち出して、イエス様に尋ねます。常に柔和で忍耐強いイエス様はこの様に応えられました。あなた方は聖書も神の力も知らないから思い違いをしています。地上の言葉で天国の事を考えるべきではありません、あなた方は天国の事を全く考えられないからです。死後の命をこの世の基準で測る事は出来ません。

復活の命とは、別次元における、もう一つの命です。そこには結婚は存在しません。結婚はこの世の生活と結びついたものだからです。と言われました。イエス様は人々の使う言葉を、だれもが解る用語を使って話されました。いわば相手のサドカイ派の土俵で勝負をされたわけです。

イエス様は続けられます。復活した人々は、天使のようなものです、私達が今は味わうことも想像する事も出来ない、別の状態で生きる事に成るのです。しかし、イエス様はその後、いわば反撃ともとれる単純かつ独創的な方法で、彼らが重んじている聖書モーセ五書を引用されてお話しになります。

イエス様は復活の証拠を、モーセと燃える柴の話の中に示されます。(出エジプト3:1~6)神はそこでアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神としてご自分を現わされました。

神の名は、神がご自身と結びつけた男女の名前と結び付けられます。そして、この絆は死よりも強いものです。私達は、神と私達の関係、神と私達一人一人との関係についても同じように言えます。神は私達の神です。「神は私達の一人一人の神です」、こう言う事が出来ます。

だからイエス様は言われます。「神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神なのです。全ての人が神

によって生かされているからです。」(ルカ 20:38)。

これこそが決定的な神と私達の絆です。すなわちイエス様と私達との契約です。イエス様と私達との基本的な契約です。イエス様ご自身が契約です。イエス様ご自身が命であり、復活です。イエス様は十字架で身代わりの死を持って私達を愛されたように、死に打ち勝つことによって復活を確かなものとして、私達に示して下さいました。神はイエス様の身代わりの死によって、イエスを信じる私達に永遠の命を与えて下さいました。

ですからすべての人は、イエス様のおかげで、この世の命よりも、確かな命、真実な復活の永遠の命を望む事が出来ます。神が私達に用意して下さる命は、それは私達の想像を遥かに超えたものです。

なぜなら、神は愛と憐みを持って、私達を驚かす事の出来るお方なのです。

それ故に、将来おこる復活とは、サドカイ派の人々が期待していたものとは反対の事です。永遠の命、すなわち、私達が待ち望む来世の命の基準となるのは、この世の命ではないのです。

むしろ、永遠の命こそが、私達皆の地上の命を照らし、それに希望を与えるのです。

私達人間の目だけで見れば、人間の歩みは生から死へと向かっているように見えます。その事は明らかで疑う余地がありません。

しかし、それは私達が人間の目で見ただけの場合に過ぎません。イエス様はこの様な見方を逆転しておられます。私達の信仰の旅路は、死から命へ向かいます。イエス様が約束されている完全な命へと向かっているのです。

今、私達はその旅路の途中にいます。私達は確かな命へと向かって人生の旅をしています。そして、この完全な確かな命こそが、旅路の途中にある私達を照らしています。

ですから、死は私達の後ろにあるのであって、前にはありません。私達の前には、生ける神、契約の神、私達の名前を握っていて下さるイエス様がおられます。

<結論>

神が言われると通り、「わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である」。神は生きている者の神です。イエス様の贖いの十字架の死により、罪と死は完全に打ち負かされました。

私達は新しい福音の時代に生かして頂いています。洗礼を受けて、聖餐式に預かる私達は、復活の命にあずかる者とされた喜びを、ある意味ではこの世で前もって味わわせて頂く事が出来ます。イエス様は私達への愛と忠実を、この世の生活の中で具体的に、私達のお祈りに答える事、日々の中で味わわせて頂いている信仰の喜び、苦悩、病気の癒し、感謝等の体験を通して示して下さいます。

この事により、私達は復活への信仰を確かにさせて頂けます。神の愛は永遠で、変わる事はありません。それは限られた時間に留まらずに、永遠です。そして復活は、主イエスが私達と共に前進して下さいます。約束への歩みです。